

平成25年 第14回 教育委員会定例会議事録

招集日時 平成25年12月20日(金曜日) 午前10時開会/午前11時40分閉会
招集場所 加賀市市民会館2階 第7会議室
出席委員 上田政憲、酒谷百合子、畑中直子、中西修一、旭直樹
会議列席者 掛山事務局長、網谷次長兼学校指導課長、中矢次長兼九谷焼美術館副館長、梶谷教育庶務課長、
西出生涯学習課長、谷口スポーツ課長、田嶋文化課長、矢嶋図書館長、柏田市政図書室長、
米屋教育庶務課長補佐

上田委員長 平成25年第14回教育委員会定例会開会宣言

挨拶

前回以来、1カ月経つわけですが、随分いろんな動きがこの1カ月の間にございました。委員の皆様方にも少しお伝えしておかないといけないことは、後ほど詳しいことは事務局の方からご報告があると思いますけれども、市長が変わって、私どもの学校適正化についてのスケジュールが第2案というかたちで進行せざるを得なくなりまして、12月市議会の定例会が9日と10日にあったわけですが、その中でも議員さんの質問にお答えするかたちで基本方針を少し説明させていただきました。また、13日の教育民生委員会で、教育長の方から詳しい基本方針を説明していただいたようであります。それを受けまして、16日に黒崎小学校の保護者の皆様に夜集まっていたいて、教育長とそれから網谷次長、掛山局長と私で、保護者の皆さんの前で現状と課題を説明するとともに、保護者の方からの要望であるとか、あるいは不安に思っていることとか率直なご意見を聞いたわけです。17日には菅谷小学校で同じような会を持ったわけですが、やっぱり黒崎と菅谷ではちょっと違うと思いましたのは、黒崎はだいぶ前からこういう状況だとわかってらっしゃったんですね。実際にどう思っているかというお話になっていると思うんですが、菅谷は生徒減が急激だったものですから、まだそういうかたちのご意見にならなくてですね、やっぱり地域のコミュニティとして残したいというご意見の方が多かったように思います。もう一つは、どうしても被害者意識が強いんですね。そういうあたりで不満を随分お聞きしてまいりましたし、これから来年1月後半、今度は地域の方々向けに出向いていかなければならないと思います。大変な課題を背負って、一汗も二汗もかかないといけないというふうに思いました。後ほど詳しい説明があると思います。それからもう一つは、18日の北國新聞にも載っておりますが、学力テストの成績の公表、今日の審議にもあがっておりますけれども、来年度から教育委員会が成績を公表することができるというかたちになっているようですが、県内でも市町が対応について新聞紙を賑しております。搔い摘んで申し上げますと、11月30日には能美市、野々市市、内灘町、能登町が「学校別成績は公表しない。」と言っております。ただし小松市は「完全に非公表というのは考えにくい。年度内に結論を出す。」こんな言い方をしている。12月13日には金沢市が「過度な競争や序列が生じないよう教育上の効果や影響に配慮し、適切に対応したい。」14日

には野々市市が「公表せずに到達度の分析や対策を保護者や市民に知らせていきたい。」こんなふうに言っております。今日の審議のメインでありますし、一人ひとりお聞きしたいと思っております。以上でございます。早速、議案第30号について説明をお願いいたします。

梶谷課長

先に資料について説明させていただきます。お手元の方に3枚追加ということでお配りしてございます。議案第30号の参考資料ということで、北國新聞の切り抜きがございまして。それと報告第43号ですけど、こちらは33ページに入るものでございます。もう1枚は追加の報告でございまして。第45号としまして、学校の表彰関係の資料がついております。あと訂正なんですけど、本日お手元の資料は臨時会となっておりますけども定例会です。申し訳ございませんでした。以上です。

上田委員長

では、議案第30号について事務局の方から説明をお願いいたします。

- 議案第30号 平成26年度全国学力・学習状況調査における加賀市の結果公表について
網谷次長 資料に基づき説明

上田委員長

ただ今、網谷次長の方から今年度の成績について実態というか、説明がございましたけども。

旭教育長

補足です。20ページの上田議員の質問に対して、教育民生委員会か本会議か忘れてしまいましたが、これは本議会ですね。追加質問で「未来永劫この方針で行くのですか。」と問われたのです。

掛山局長

教育民生委員会です。

旭教育長

本会議です。本会議で問われたと思うんです。私は現時点の対応は今ほどご答弁した通りですと、これからについては次回の教育委員会で審議したいと思っておりますと答えた覚えがあります。よって、今日の議題にあがっているとお考えいただきたい。喋ったついでで申し訳ないですが、今、上田委員長のご挨拶の時に、他市町の状況とか、全国まではわかりませんが、この問題について小松市はすぐに出したんですけども、金沢市や能美市のように拙速に出さなくても、審議はしないといけませんよ。教育委員会としての考えは一人ひとり聞かないといけませんけども、子どもにとってどうなのかという視点で考えていただければと思います。そういう経過です。

上田委員長

先ほどの網谷次長の報告について何かお聞きになりたいことはありませんか。

畑中委員

質問なんですけど、そもそもテストを受けた本人は自分の点数を知らないわけなんですよ。

網谷次長

答えが正解か間違いか本人はすべて知っています。

畑中委員

1問につき何点というセンター試験みたいに自己採点はできますか。

網谷次長

それは授業の中でとか、または放課後に個別で指導とか、必ず間違いを正して今後につなげるという努力はそれぞれの学校でしております。

旭教育長

付け加えですけど、当たり前のことなんですけど、子どもは絶対に自分が受けるのです

から。採点は国がしますので、それが4月に受けたものの回答がくるのは8月中旬なんです。データは8月下旬ですから、その間待ってられませんので、学校の先生の方で自己採点、大体この子はこういうところを間違っているとか個別に全部やるんです。ただ、全体の位置付けは8月下旬にならないとわからない。全国平均の上だったとか下だったとか、それは後でわかるんですが、それぞれの算数なり国語なりどこで間違っていてどこが弱いかというのを学校でみんな把握して、その手立てを、この子はどのように育てていったらいいか、授業の中で先生が工夫しながら毎日やっているわけですから。放課後呼んだりという手立てはしている。そのための試験ですから。ただ、位置付けがわからないので、国はこういう全国平均を出してきます。先生方は教え方が良かったのかどうかわからないまま進みます。それぞれの目的がありますから、設問ごとにうちのクラスの子はここが違っている、ここを強化しないといけないという今後の指導の指針になります。だから全国学力調査の位置付けは大事だと思うんです。だけどその全ての狙いは何のための試験であるか。これはやっぱり子どもの成長を願うことと、その子どもを育てている教師の指導力向上のためにあると私は思っているんです。この2つの大きな原点を見据えて、全国平均を出さないわけにはいかないですから、自分達で切磋琢磨して、いずれ世に出ていかないといけないわけですから、子どももその中で井の中の蛙になってはいけないし、それをわかって授業していかないと、子どもも楽しいし、自分もこれが好きだからと俺流の授業をずっとされると、その子が中学を卒業するとき全然力がついていないということで教師としては無責任になってしまう。こういうものを上手く活用しながらやらないといけないと思うんですが、文科省の言うとおりに比較論争になってくるとこれもまた問題だと思います。税金を使っているんで、議員さんその他は公表するのが当たり前であろうと、こういう感覚なんです。また教育委員会は隠蔽するんだらうと誤解されるんですが、この辺はどうしていくかという問題があります。

網谷次長

すみません。一つ付け加えなんです、点数の公表について審議されているわけなんですけども、ご存じだと思うんですが、全国学力・学習状況調査というのは点数だけじゃなくて子どもの生活実態、家庭または学校での生活の質問・調査もありまして、今年度の加賀市の児童生徒の生活実態は全国と比べてどうか、県と比べてどうかという調査も一緒に行っているんですね。例えば今年の小学4年生であれば、全国や県に比べても生活がすごく安定していて学習に対する意欲とか、または学習時間も上回っている。ですが、現在の6年生はゲームする時間が全国平均より多いとか、寝る時間、それから朝ご飯を食べないとか、そういった生活実態を全国と県と加賀市を比べると平均よりもすべて劣っている。ですから6年生の生活実態は危険だという予想がつくわけで、まずはそういったような分析も各学校に示して、学習意欲をつける前にまず生活を安定させないといけないということも分析の結果わかるわけですね。だから点数のみにこだわった話なんです、要するにこの点数を公表することで成果が上がるという議論よりもっと大事なことがあるんじゃないかというのが、これまでの加賀市教育委員会の考えではないかなと思います。

旭教育長 一つだけ。中西新委員さんには本当に申し訳ないので、やっぱり資料を渡ししておかないといけないと思います。加賀市の実態をご存じないし、終わってからでもお見せしないと。加賀市はどうかというのは今日が初めてですからね。

上田委員長 資料をお渡ししてないんですか。

旭教育長 はい。これが8月下旬から9月の頭にきて、我々は1回見たうえでこの話をしているんです。今後どのようにしていかないといけないかという、網谷次長が言ったように学力と生活実態を相関させて、なぜこの学校のここが弱いのかというのが大体見えてきたんです。また、生活が乱れているところは学力が低いです。朝ご飯を食べず、携帯をたくさん所持しているような学校とか、これはどうしても学力が低い。目に見えているくらいです。よって、中学校と小学校の乖離もあった。来年度、教育施策としてどこに重点的に持っていかないといけないかと、来年度の予算化をしてもらっているんです。そこで中学校教員の教科指導研修会を立ち上げるような予算要求をしています。それから中学校区ごとに小中連携できるような体制を、これは予算には関係ないかもしれませんが、教育委員さんやPTAさん、学校の校長、教頭、教科主任を交えて、そういう自分の担当の地域の顔が見える関係、教育委員さんや保護者、先生方の顔が見えるような交流を仕掛けていかないといけない。今もやっておるんですが、先生方だけの交流では限界があるので。それから、ある小学校ではとても成績が悪い。何でかと見ていくと、6年生が受けるわけですから、5年の段階で学級崩壊でした。そういうところはやっぱりみんな悪い。ということはクラス経営、集団的学習のそこをどのように教科指導だけでなく、すべての教育の基盤である集団的な学習の場であるクラス経営を上手くできるような教員づくりとういか、資質アップをしないとけない。ということで、これは来年そういうものに特化した研修体制を予算化する。こういうようなかたちで今動いているんです。こういう全国学力・学習状況調査というのは非常に大事で、これをどう活かして次に教育力アップに持っていくかということが本当の狙いだと思っているんです。だからこれを公表することとどういう関係があるかと、まあ、ざくつと言うと変な話ですが、公表しないから先生の油断につながる場合がある。いいところはいいですけど、静岡県の川勝知事が「許せん。我が県は全国で一番下だった。一番下を公表する。」と言っていたのを、おそらく静岡県の教育委員会が「ちょっと待ってください。現状はこうですよ。」と言ったら反対になりましたね。全国平均を超えたら校長名を公表していきたいと。私はそれならそれでわからなくもないですけども、じゃあそれが子供にとってよかったのか、その時だけの興味本位で上だった、下だったと言うのか、それから私は公表するんだったらもうちょっと慎重に3年間かけてこの学校は伸ばしましたよ、この学校を表彰しましょうというやり方。だから悪いことは公表しなくてもいいけれども、この学校は底辺だったけど5年間かけて校長先生や先生方のご努力で伸ばしましたよ、という学校を反対に公表したらいいのではないか。公表の仕方でもいろんな公表の仕方があるので、そこを慎重審議していくことが教育委員会の知恵じゃないかなと思っているんです。ものすごく拙速に一覧であの学校は何点で序列がどうとやると、何もならないんじゃないかという気がし

ております。

上田委員長 あと他に何かございませんか。

酒谷委員 先ほど管理職の先生方に教えてあるとおっしゃっていましたが、自分達の学校
だけですか。それとも加賀市の全部の学校ですか。

網谷次長 もちろん自分の学校の正答率を知らせてあります。

上田委員長 他の学校の正答率は知らせていないんですね。

網谷次長 はい。

酒谷委員 もう一つよろしいですか。議会答弁の 20 ページのところ、「国や県との比較とし
ての総評を保護者に対して公表いたしております。」と書いてありますが、保護者の
方には。

網谷次長 この内容は要するに点数とかを直接教えるという公表ではなくて、県の正答率と
比べると本校はどれくらいの位置付けなのか。例えば 5 ポイント足らないとか、結
構近いところにいるとか、具体的ではなく抽象的です。何が悪いのか、どこの改善が
必要かという改善策、そしてそういうようなことは例えばそれぞれ校長が書いてい
る学校便りであったり、または研究の方の担当が出している物にできるだけ載せて、
そういった改善策を公表することで家庭の協力も得て、実態を知ってもらって一緒
に取り組んでいく姿勢はそういう意味では公表している。具体的に点数を公表して
いるわけではございません。

上田委員長 私どもも計画訪問をしていまいりましたけども、特に小学校の場合は学力の向上と
授業力の向上を目標に掲げて、しかも学力の向上については、カリキュラムの中に
位置付けてやってらっしゃるといのがどこの学校でも見えました。そういう点は
学校それぞれ努力なさっていると思うんです。ちょっとその辺りをお聞きしたかっ
たんですが、それぞれの学校が保護者に対してどの程度の説明をなさっているのか、
今の酒谷委員さんの質問にお答えいただいたのでわかりましたけれども、正答率に
ついてはもちろん知らせるはずはないと思っておりましたから、やっぱり保護者の
理解を得ながらでないで、カリキュラムの中に位置付けて進めることはできません
からね。他にありませんか。

旭教育長 はい。補足ではないですが、このようにやっているんです。例えば県の平均を 100
とします。100 に対して我が校は 102 だったとすると、完全に県の平均を超えたこと
になります。我が校は 95.5 だったと、県の平均よりも 4.5 低かったと、生の点じゃ
なくて加賀市は絶えず県の平均を上回ることを目標としています。県は全国 3 位で
す。だから県の平均を上回れば、加賀市としても胸を張って義務教育を終えること
を目標にしているんです。これは何度も言っていますけども、全小学校が全国平均
より上です。ただ、県の平均より上か下かは学校によってばらばらで、半分ずつく
らいです。何度も言いますが、課題は中学校なんです。中学校は県の平均どころ
か全国の平均も難しいところがあるところがあります。後でまた実態を見ていただけれ
ばと思いますが、じゃあ何故そうなのかというところは、教育委員会の環境整備、
人的な先生が悪いのか、物的な建物とか備品が悪いのか、あるいは先生自身の指導
力が悪いのか、そういう点をしっかり分析して悪いところを少しでも改善できるよ

うに指導して仕掛けていくのが我々の仕事です。今、中学校で色々と家庭的な問題や生徒指導上の問題があるんだろうと思うんですが、それを乗り越えて学力をつけてあげないと生きる力がつかないので、この辺をどうしたらいいか。保護者にどこまで各学校は知らせているのか。今言った方法で小学校はほとんど知らせています。県を100として我が校はこうでした、だから保護者も一緒になって子供の成長を、「どこが悪いんですか」「携帯は持たさない方がいいね」とか、あるいは食生活を大事にする、睡眠が一番だとか、こういうふうに取り組んでいって、小学校はどんどん上がってきている。ところが、中学校の実態を聞くと部活動とか受験勉強があるんでしょうが、どうも見ているとそこまで学校が積極的に保護者に言っていない。これを言えるような学校を作らないといけない。それを遠慮している。遠慮しないでどんどん自分の学校の実態を言って、保護者の協力を得られるような中学校づくりをしていかないと、個別の生徒ばかりを抱えてしまうと、やっぱり学校全体としては落ち込むのではないか。そこでじゃあ公表するか、とここが問題なんです。いきなりはできないと思いますけども、今言ったのが実態です。

上田委員長

はい。他にいかがですか。お聞きになりたいことはございませんか。

畑中委員

さっきの質問なんですけど、各生徒は自分の点数というか、位置付けを先生の授業とかテストの採点を復習なんかでわかるとして、平均点とか個々の学校の点数がもし公表された場合に自分が足を引っ張っているとか、そういうのがわかるものなんですか。

網谷次長

児童生徒数が多いところは全体的にぼやけてしまっているところがあると思うんですが、ご存じのように加賀市内は小規模学校が多い関係で、どうしても児童生徒数の少ないところについては、そういったことがわかる可能性もあるなということが問題だと思っております。

上田委員長

少人数では一人の点数が大きく響きますからね。それではどうでしょうか。

旭教育長

先ほど申しましたが、中西委員さんには本当に申し訳ないので、もっと成績と生活実態を相関したものをここに outsizing させていただいて、我々は分析していますから、来年度予算に反映させるべくもう動いていますが、今一度皆さんに発表させていただいて、この問題については冒頭に私申しましたように、拙速に結論を出さなくてもいい問題だと思うんです。目的は子どもの学力向上、子どもの成長にどうつなげるかということですから、そのために保護者の協力や地域の協力を得るためにこの全国学力・学習状況調査をどのように活用するかということが目的ですので、もうちょっと中身を知って、拙速に結論を出さなくてもいいと思うので、継続審議ということにさせていただけないでしょうか。

上田委員長

そうですね。

旭教育長

網谷次長、山下指導主事が作ったものがありますから、教育委員会で出すものを用意してください。今度また説明させていただきます。

上田委員長

実は僕自身も中西委員さんに意見を求めるのは大変つらいものがあるなと思っていましたものですから、どうしようかと迷っていました。確かに拙速に結論を出すべきものではありませんし。

旭教育長 マスコミから絶えずこういうことに対して私に電話がかかったりするもので、継続審議とさせてもらいますけれども、小松みたいに「はい、出します。」というふうには今の段階ではできません。答弁したことで継続審議ということでよろしいでしょうか。

上田委員長 はい。では、継続審議ということでお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

全委員 はい。

上田委員長 皆さんの了解を得ましたので、継続審議にいたします。審議事項はこの一件だけです。報告第40号について、網谷次長お願いします。

■ 報告第40号 学校規模適正化の地元説明会の開催について
網谷次長 資料に基づき説明

上田委員長 ご質問はありませんか。

畑中委員 菅谷小学校の保護者の方は、現在の在校生の保護者の方ですか。1年生になる予定だった方達は山中小学校に行かれるんですね。その方達の親御さんはいらっしゃらなかったんですか。

網谷次長 入学予定の児童が4名いたわけですが、その児童はすべて山中小学校へ就学変更届が出ておりまして、その保護者は来ておりません。

上田委員長 保護者ですから、現在いる児童の保護者です。

旭教育長 保護者の実態といいますか、地域の生の声を聞かせていただいたんですけども、我々が当たり前だと思っていることを当たり前だと思っていないということがたくさんありました。どういうことかと申しますと、校区というのは厳密に守られるものだと思っていたのに全然守られていないと、今みたいに本当は4名入ってこないといけないのに全員が校区外の小学校に行くのはいかがなものかという強い不信感があるみたいですね。もちろん通学区域という学校区があるんですけども、法律上は「子どもの第一義的責任は保護者にあり」ということが教育基本法第10条に明確に書かれています。条文は忘れちゃったけども、保護者が責任を持って子どもの送り迎え等をやりますと言われたら止めるわけにいかないんですね。だからそのガードが非常に甘くなっている。保護者が言ってきたら、教育委員会側は責任だけは持ってくださいと言うのが確認事項なんです。そうすると、大体ここを訪れる人達は拍子抜けしているというか、甘いと言うんですね。校区をしっかりと守ってくれと、そうすれば菅谷小学校も黒崎小学校も合計すれば20人を切ることはないじゃないかというふうに言われて、教育委員会としてしっかりそこをガードしてくれという意見が結構強かったんです。その不信感というか。ただ、それはできませんというかたちで教育委員会は答えるしかない。これはいろんな理由があって、それは網谷次長からまた、今はできませんけども。

網谷次長 今、資料ありますけど。

旭教育長 ちょっとだけ、どんな理由があるかお願いします。

網谷次長 はい。今ほど教育長がおっしゃった件についてですが、教育基本法第10条の中に、

家庭教育について述べている条文がありまして、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。」という条文があるんですが、要するに教育については父母の意思が第一義的責任というかたちであるんですが、加賀市の教育委員会のホームページの中に、「就学校の変更が認められることがある場合」ということで公開されております。いくつか言いますと、地理的理由、身体的理由、転居に伴う理由、通学区域等の変更に伴う理由、家庭に関する理由、部活動に関する理由、教育的な理由、その他特別な事情として考えられる事例というかたちでいくつか載っております。こういうのが一応あるんですが、最終的に通学に関しては保護者が責任を持ちますということをしちっと確認できたうえで認めております。

旭教育長 だからほとんど OK なんです。

酒谷委員 ちょっといいですか。先日のその説明会なんですが、地域保護者を対象とありますが、例えば区長さんとか地域の方はいらっしやいましたか。

網谷次長 今回については保護者のみ対象でした。要するに統合するかしらないか、教育委員会は早く示してほしいとか、またその説明がほしいというご意見が大変多かったので、まずは保護者を対象に説明会をさせていただきました。ですが、1月、2月にかけてこの2校と、それから複式を有する4校の学校には地域の保護者にも説明する会をそれぞれ開かせていただいて、率直な意見を聞きたいと思っております。

畑中委員 世間話的なことですが、菅谷小学校でお兄ちゃんとかお姉ちゃんが在校生にもかかわらず、妹さんとか弟さんとか山中小学校に行くという方がいると聞いたよう思うんですけど、その保護者の方はいらっしやらなかったんですか。

網谷次長 いらっしやっていたと思います。確認はしておりませんが、欠席した保護者は多分いなかったと思います。現在、4年生の男の子が2人おりました。その2人のうちの1人の妹が本当は来年度入る予定だったんですが、保護者の意向で下の子は山中小学校へやると。でもお兄ちゃんは、本人が望めば菅谷小学校におくというのが最初のお話だったそうなんですが、ついこの間、県のタグラグビーの大会があって、菅谷小学校がすごくいい成績だったんです。その時、保護者がたくさん集まった中で、どうも今年度中の統合がないということで保護者の話題になったらしいんですが、その時にその子の親が、統合がないんだったらもう転校することもあるかもしれないと校長先生にお話しされたそうです。そしたら、それを聞いていたもう一人の男の子の親が、それならうちも転校させてもらおうかなということで、そうするとその2人がもし転校したら来年度の5年生が0になると、もう一人の男の子に妹がいるんですね。それからいともいるので一気に4人減るかもしれない。その子達が転校してしまうと、いよいよ2桁を割って9人になってしまうということも今後心配の種といたしますか、そんな状況でした。

畑中委員 では、今回は山中小学校に行かせようという方の意見はとても出づらいような状況ですか。1つも出ませんでした。

旭教育長 やっぱり空気なんですね。強い声、大きい声を出す勢いに押されて本音がなかなか

出ないんですね。それで終わった後に、それぞれ無記名でいいですから今後のことを、これも子どもの教育環境がいいかどうか。誰も学校を廃校にしたいくないんです。学校は地域のシンボルでもあるし、心の故郷でもあるから大事にしたいけれども、1学年に子ども1人、マンツーマンで家庭教師みたいな状況で、複式にしても1年に1人、来年またどうなるのか。入学者はゼロですから複式にするのか、どうなるか私もまだ計算しておりませんが、体育の授業にしてもかけっこしかできない。子どもは一生懸命どんな環境でもやるし、先生も一生懸命やと思いますけども、やっぱり学校という場は何のためにあるのかと言ったら、集団的学習の場なんですよ。良いこと悪いこともあって、いじめもあるかもしれないけども、切磋琢磨させて思わぬ発見をしたりして、自分の能力を再発見する。それを引き出すための教育の場ですから、そりゃ離島とかへき地であれば1人しかいなくても絶対につぶしませんよ。だけどへき地は加賀市にないわけですから、行こうと思ったらその隣の学校に行けるわけですから、教育委員会としてはやっぱり子どもの教育環境を整えていくことが我々の仕事ですから、今回初めて議会を通して公表する。加賀市は今まで公表したことがないんですよ。上田委員長の答弁をもって公表した。危機意識のある親御さんが転校すると言ったら学校が消滅する可能性もあります。よって、保護者説明会だけでもさせてもらいます。本当を言うと来年1月に、この教育委員会の後にする予定でしたが、そんなことを言っておれないから、まずは保護者に加賀市の現状を知ってもらおうということで黒崎と菅谷に入ったんです。ところが、黒崎は今言った通りなんです、菅谷に入ると「つぶしに来た連中だ」と見られてしまっていて、そちら側の意見で言われました。教育委員会は預かっている側ですから、我々はつぶすのではなくて、保護者の意見を聞いていかようにでも対応しますというつもりで行ったんですけども。これをまた乗り越えて、子どものためにどうしていったらいいか地域の方々にも言っていけないといけない。この辺がづらいところですけど。

上田委員長

本当に子どものためという部分があんまりなかったですね。

旭教育長

ええ、菅谷は残念ながらそれは感じなかった。だからもうどうするのかという感じがしましたが。それで来年に入って1月か2月になりましたら、それぞれの校区ごとのところへ行っていただかないといけないかなと思うんです。畑中さんは山中へ、私達も行きますので。本当を言うとみんなで行く方がいいんですが、あんまりたくさん行ってもいけないので。

上田委員長

ちょっとそのスケジュールは今出せますか。

網谷次長

今はまだ地域の方々への連絡が年末年始でできおりませんので、今後すぐに日程調整に入りたいと思います。現在はまだ決まっておりません。

旭教育長

そして中西さんのところにはそういった対象校がないですね。だけど、どこかに入ってもらった方がいいですね。山中地区へ。強い地域性がありますからね。それから黒崎は長い間複式はどうするんだときているから、どんと構えているんですよ。菅谷は急激に減ってきたから。

中西委員

黒崎でもやっぱり保護者の意見と、それ以外の地域住民の意見は開きがあるんです

旭教育長 ね。
ところが、その洗礼を何回か黒崎はやってきているんです。だから案外と教育委員会の言うこともわかると、だけど我々の言うこともわかってくれと。だけど現実はずいぶん子どもが少なくなっている。そういうことで大人の会話ができそうな気がします。

畑中委員 すみません。地元のことをお聞きするようで申し訳ないんですけど、東谷の子ども達はスクールバスで山中小学校に通っているわけですけど、加賀市内で東谷以外にスクールバスで通っている子ども達っているんでしょうか。

掛山局長 いません。

畑中委員 今何人くらい通っているんでしょうか。

掛山局長 もう少ないですよ。10人切っているはずですよ。今立まで一応行っているんですけど、あれは生活バスとしての活用も含めてです。

旭教育長 中学生も全部入れますからね。

掛山局長 冬場ですけど、冬場だけは中学生も入れます。

旭教育長 今また緑丘も保育園がなくなって急激に少なくなる。吉崎の辺りですね。何度も中西さんには申し訳ないんだけど、教育委員会は結論を出したんです。ちょっとその表は持ってこなかったんですけど、それはもう前市長にも報告しているし、そこをどういつ頃にするかということできたんですが、12月議会で初めて我々の基本方針を公表したんです。スクールバスは当然出さないといけない。統合するところは全部スクールバスを出す。そういう基本方針です。複式学級に入っているところをイエローゾーンとする。20人を切ると教頭が配置されないのと事務員が配置されない。こういうところはやっぱりレッドゾーンに入りましたと。よって、統廃合の対象として喫緊の課題になりますということを地域の方々に説明していかないといけない。そうするとイエローゾーンに入っているのが4校ですね。そしてレッドゾーンに入っているのが2校、そういう感覚で加賀市を見ていただきたい。そして来年、南郷小学校がイエローゾーンに入ってきます。だから加賀市では7校です。だけどこういうことを加賀市全部の人にわかってもらわないと。教育委員会としては、現実的な統廃合として通学案を考えたり、いろんなことをしましたけども、加賀市のやり方として教育委員会の結論は出ているんです。それをいつ公表するかということで、12月に公表しました。これを本当言うと全加賀市民にわかってもらって、心の準備、体制を作っていくというのが今の状況なんです。

酒谷委員 「学校規模適正化検討委員会の設置」とありますが、これはいつ頃を予定してらっしゃるんですか。もう準備の段階なんじゃないでしょうか。

網谷次長 15ページの3番目に書いてございます、「学校規模適正化検討委員会の設置」についてですけど、現在の案をそこに示させていただいております。地域・学校・市議会・PTAの代表者からなる検討委員で構成して事務局は市教委に置くと。今年度末の3月までにはそういったおおよその人選を重ねて、平成26年度4月早々にはそういった組織を立ち上げて、最長2年以内での加賀市全体の統廃合に関わる提言と言いますか、方針というものを打ち出して公表できればと考えております。現在は詳しいことは決まっております。

上田委員長 今の件に対して一つ確認ですけど、「学校規模適正化検討委員会」は検討する内容として黒崎と菅谷は入らないのですか。

網谷次長 適正化検討委員会につきましては、黒崎と菅谷は喫緊の課題として、この検討会に入れないでとにかく早い段階での統廃合に向けていくと考えております。基本的には全市的なことと、もう一つは複式を有する学校を対象に検討を進めたいと考えております。

旭教育長 これは確認ですけども、①については教育委員会で完全複式に入った学校、20人を切った学校を統合の対象にすると決めてあります。検討していたらまたおかしなことになる。だからこれは早急に対応する。早急に対応するから②、③はイエローゾーン・レッドゾーンは決めているが、もっと違う方法があるかもしれない。あるいはイエローゾーンと言っているけども早く統合した方がいいという結論になるかもしれない。②、③はこれから検討していくということです。

上田委員長 ありがとうございます。他に何かご質問はありませんか。保護者説明会ではご主人は結局地元の方が多いですから、自分達が小規模の学校で育った経験をお持ちなんですね。奥様は他から来ているのでちょっと違うわけですね。そういう意味でご家庭の中でも意見が違ったりすることがあるようです。そういうあたりは難しいということと、先ほど報告がありましたけれども、校区外へ通学する子ども達の対応に対してですね、なかなか教育委員会は大変難しい立場にあります。そういうあたりを踏まえながら、これから地域の中へ入っていかないといけないわけですけども、何といたっても一番の被害を、被害と言っていいのかわかりませんが、被っているのは子ども達ですから、それについて私どもは黙って見ているわけにはいかないという気持ちで行きたいと思えます。次に行ってよろしいでしょうか。報告第41号についてお願いします。

■ 報告第41号 加賀市議会12月定例会における教育委員会関係答弁について

梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長 加賀温泉郷マラソン中止の質問がたくさんございましたから、掛山局長さんも大変でございました。何かご質問ありませんか。

では、次に参りたいと思えます。報告第42号について説明をお願いします。

■ 報告第42号 教育委員会所管施設の指定管理者の選定状況について

梶谷課長 資料に基づき説明

上田委員長 これに関して何か質問ございますか。

では、次に参ります。報告第43号について谷口課長をお願いします。

■ 報告第 43 号 第 1 回加賀温泉郷マラソン大会の検証について
谷口課長 資料に基づき説明

- 上田委員長 これについて何かお聞きになりたいことはありませんか。
- 旭教育長 補足というか、とにかく来年の6月議会に報告する。来年度4月のマラソンの開催がないということですから、じゃあ再開するとしたら再来年度ですね。そうすると再来年の4月に実施できるかできないか逆算していくとこれが限界なんです。6月議会で承認して、やれということであれば10月から全国に対して応募できる体制をつくらないといけないし、それから警察とコースに関する話し合いをしていかないといけないし、これでも大変難しいくらいなんですけど、これが限界かなと思います。これでだめならもう一年また延ばすということになるし、マラソンを諦める。諦めると言うとおかしいですけど、別の加賀市を一つにするようなイベントを考えていくか、とにかく今回のことについてしっかり検証するためにメリハリをつけて6月議会に報告できるよう今年度中にアンケートの原案を作らないといけない。来年1月には実施できる体制にもっていかないと、このスケジュールではこなしていきません。それくらい厳しいものです。
- 上田委員長 確かにスケジュールを見ると結構きついですね。ただ、せっかく第1回マラソンをしたわけですから、なんとか検証を活かして第2回目を開催できるようにお願いをし、期待したいですね。頑張ってくださいと思います。では、次に参ります。報告第44号についてお願いします。
- 旭教育長 ちょっとごめんなさい。検証する際の項目に「1. 検証項目(3) 実行委員会の体制」はどういう意味ですか。今ある実行委員会と実施は今、事務局であるスポーツ課でやっていますね。私ははっきり言ってスポーツ課だけでこのイベントはできないと思っています。市あげての、全庁あげてのプロジェクトチームを作らない限りは元の本阿弥になると思うんですが、そこはこの(3)になるんですか。
- 谷口課長 おそらく事務局的には今のかたちだろうと思うんですが、おっしゃったとおり庁内の組織も含めてということです。
- 旭教育長 (3)に含まれるんですね。
- 谷口課長 はい。
- 旭教育長 わかりました。
- 上田委員長 その辺りもきちっと検証していただかないと。
- 旭教育長 それをしないと絶対できません。
- 上田委員長 わかりました。次、報告第44号について西出課長お願いします。

■ 報告第 44 号 平成 25 年度社会教育関係文部大臣表彰について
西出課長 資料に基づき説明

- 旭教育長 澤田淳子さんの年齢を教えてください。
- 西出課長 76 歳です。

上田委員長 何かお聞きになりたいことはございますか。
旭教育長 なぜそう聞いたかといいますと、常に学校教育関係の方の表彰にはちゃんと年齢も出ているので、これはやっぱり書いておかないといけないということです。
上田委員長 わかりました。次の報告第45号についてお願いします。

■ 報告第45号 平成25年度いしかわ教育功労者表彰（石川県知事表彰）
優秀教員について
網谷次長 資料に基づき説明

上田委員長 優秀教員はこの制度が始まって以来、加賀市は2人目ですね。大変素晴らしいことです。この制度がスタートした頃にちょっと関わったことがございましたから、小学校、中学校、特別支援を合わせて1年に10名ですから、なかなかいらっしゃるんですよね。そういう点で大変素晴らしいことですし、もちろん本人の励みにもなるでしょうから。

旭教育長 そういうことで、社会教育や学校教育とともに教育は一括りですので、こういう核を作って周りに波紋を広げていくという仕掛けもあるかと思います。社会教育の2つの表彰と、それから野田さんと南さんを加賀市の財産として波及できるように、それから県からは加賀市すごいねと言ってくれています。これがまた若手教員の目標になる。そういう中で教育というのは活性化していくもんだと思うんです。教育委員会としてもそういうような仕掛けといいますか、意識啓発をしていきたいと思えます。以上です。

網谷次長 すみません。ちょっと付け加えをお願いします。今ほど言い忘れたんですが、先ほどの優秀教員は県知事表彰になりますが、南教諭のマスター教員表彰は県教育委員会表彰ということになりまして、県の木下教育長の方から11月1日に石川教育の日記念大会の席上で表彰されております。以上です。

上田委員長 これで報告が終わります。その他(1)について説明お願いいたします。

■ その他(1) レクリエーションスポーツ大会の開催について
谷口課長 資料に基づき説明

上田委員長 これについて何かお聞きになりたいことはございませんか。確かにどんな大会もそうですけど、公募っていうのはすごく大変ですね。何とか皆さん集まるようにしたいですね。その他何か事務局からございますか。

梶谷課長 その他ということで中西委員が関係するんですけども、新任教育委員の研修会がございまして、よろしくお願いたします。以上です。

上田委員長 次回については。

梶谷課長 日程ですけども、1月22日水曜日の午前午後どちらか、または1月24日金曜日の午後ということでしょうか。

旭教育長 水曜日は何時からですか。

掛山局長 通常なら1時半です。
梶谷課長 では、1月22日水曜日1時半から第1回を開催します。
旭教育長 年をまたいだら第1回になるんですか。
梶谷課長 はい。年です。
旭教育長 今日は14回ですか。
梶谷課長 はい。臨時会を2回しましたので。会場はまた確認してからご連絡します。
旭教育長 第1回の教育委員会で先ほどの学校統廃合の日には出せますね。
網谷次長 はい、出します。
上田委員長 お願いします。それでは、全ての案件が終了いたしましたので、第14回加賀市教育委員会定例会を終了いたします。

以上、会議の顛末を記載し、会議録を作成する。